





慈母有由田女をあるより一町より何階
 成され之女子は糸針のいし戸をききあふ
 うみ乃も〜られとけ〜祝うすちれは
 何〜女の髪白とさ〜き月のいしをき
 いさ〜の好める筆は琴なとか〜なり〜て
 ちる名成けり〜知ぬる事〜あまきさを
 何〜と〜人〜のき〜め大意〜て判志の



けるすいふかーつれもいふと果しつるす
いふやあひさの境うらまはせたりーとん
と刺さるよとせむんまをさーまに思
それゆふせけくーくえはあしあひくと
揺よりー物そさるるを思源ーは種
ゆはま形ひはしぬとそこもあつて甲女とふ
名をまのやとならねるあつてあ眉あつ
ふ名あれんやいふはけわの歌こもさ

あふゆをんと境を我れあつてう種を
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
とふとあつてあつて

甲子公や言一り此舞あ権と初と
口をささけねといふ力をなくまはれしと

幕をささけー空室も所かー少神とささ
中さけささけけけけさささささささささ
白雲も急でゆふあのをこ流るあ権あり

ゆきりねく年と一相孔星法名跡も
跡一なやあふ顔なるき初かきうりぬる
けしとあれと甲戌いも年とと塔とを
あけさし物をもきこうしやうしり教
物とあふれ只よりわたよりやとむよされと
麦孔星法よむとけいもとかる事とや
思ひらんまゝき事あうそへた形とくハ
お例とあやうく初う法成り物も足る

ふれとま何れとあうらうあうとあは
まへ相とれくまよむくはふ地ひと
そと跡る思もまゝとあうく大原と
月もあられと師ひん事とやとそ法
きしき跡顔形もといさのれ物あふ先
たあやかく物しるは文月十ま
あひま夕ほくともいともあえう大
あうりまのやとまぢく出るいま

入る息しきうらむるもりのとて
ふさしきうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて
あつちのうらむるもりのとて

実や生念必滅乃なるん語もふせれ
杉形うらむるもりのとて
とふ思りあつちのうらむるもりのとて
ふ思りあつちのうらむるもりのとて

あつちのうらむるもりのとて

安永己亥秋七月

かろふかたの借光といふるをみねの川の
瀬をながれ人れくみしるを乃れ此
後の世に繋ぐるの完と云ふ事一

蛇穴に入られたる蛇の毒の形 樓川
昔のき風城の形をうつすの秋 龍口
月と雲とくく雨と神のれく 樓山
泉のそのくり形を云りし 龍文
何とやら言ふはきし 枯尾の橋 橋
道かゝるはと早ふと夕られ 桃牛

れよりいしおらるる計はる 茶里
秋又多しとの後 水海 前 川
いより多し料のくといひの中 口
龍のくし 龍乃 水 山
洗ひ髪干して 龍のくといひ 龍 文
龍乃月連乃 龍のくといひ 龍 牛
龍乃月連乃 龍のくといひ 龍 牛

よくこそ心ハ軽く如く
先く先くあそびく
犬の子此よりある市の申
志あ乃風平一見知る
経冊の教ハそとわたり
とろれを紫の清きや足原
口 文 境 口 山

眉赤粉婦才ちるはる我い
本屏翁花老後の無情をうきあはれ

是女田女うきをそとわたり
天府

朝夕煮りこくわきの
稲は乃果や明る
あそび——二十日月
胸若雲 横山

肩高粉婦才ちるはる我い
本屏翁花老後の無情をうきあはれ

葉乃身やゆらね
至公産
之草

至高をききし乳夕尸孔身者 床立路
相一紫人も風輪も交日く乳路長
い乳了や仲了るる田乃北とて 相及

仲乃卒然婆く山也路の寄 泊寄
ぢふあて成竹や翠々相乃落る居 定寄
極樂へ位かりる夕也神乃寄 松波
しる人孔神乃海や縮の法中 白鯉

お泣のあしを及るけりて葉水 中管
物思ひ山く奪れりれり形吐雲
ちや中管く出の言響又多向く乳 溪川
おとろくや柳れ交りてそきまわ 滝湖
草の葉乃乳一ゆくの嵐可南 松巴
写る中管しほくく寄のなまこ水 波虹
見うーなまなち物一二日 月 小田原 素雄

夕影を薄くありて是れとて山に
治田村 一山
 名所哉ハ面々又秋に雲り乳、仙角
 一帯を薄く暮るる此物所
坂戸
 之れハ所一して秋乃何る家止
 所程哉抑少く秋にあれ世々也、連水
 暮るる、物さ乙也や詠ふハ一、仙公
 まるきり一、秋乃何る家止、柳、文英
 板へ海、物さ相れ一、紫、分、夜夕

杖撥く先指れき菊也小松何ハ一、梅梨
 清吟を了るる洞也神々、高、桃女
まゝに始りて一自画賛の柳哉
及々此後此のまゝなり
 初風一、記念乃極ちるる、き、仙里
 秋の風草れ戸まきも松とらきね、小松仙芝
 おろろ又ハ新物此か伊中、これ、紫家
 とくもちる身なまら、この一葉、云、曉
 けもあけや秋の橋路も月明り、曉来

さめしきもと水巻帯のれ多句な竹里
影自乃望城も待はるゝ乳あ牛
こ舟戸も極て来しその花友茶
まよふも神志はりりそ秋の露浮木
竹也惜しむやそれ亦日月公極
朝の白やいつれ惜まぬ人り影し
琴川

一日眠りの事それや、階あがりしおろし
讀して恵好ひりる麻のこゝ記念と書す

静るるもつとさうなくまては厚子文

音中致す

影の白乃白しし影いし一垣根の乳冥明

田女二あ道をたぐく吾城めてはれりし
むししも弦城まらりし一命しもろそま
まはるゝ故人とまらるゝは厚のまらるゝまらるゝ
同根なる人やと静の静の中はるゝ

相一もあさるゝ解やしし一書れ永登祇忠
高の世城とく惜やわちるゝ柳温克
あはるゝ白れとまらるゝ城持しし一人も在持

日向てもねあきくく川舟のふ浪浦
秋の松海や神法高うつ文桂令
風形くハ清き一露我葉あくれハ九巻
浪合一二十九年乃好もり故道
葉あきくちくく露一の松葉なる杉路
福妻や清き水は後も月も秋も
露あきくも情も秋ハ秋のくれあき
松とらきわ二葉十日乃風とらし葉里

あきり一人や初とら物とら
あきりくや多平あは秋の風
雲然

秋の風はあきりくく
あきりくはあきりくく

あきりくあきりくあきりく
川はとあきりくあきりく
あきりくあきりくあきりく

あきりくあきりく

日向てもねあきくく山青

ふ神もふ所乃高やきむき水^女里^吃
年次のほり花^しか^るなる^るる^る旧^路
家の高もをりそほりれ^るる^る古^友
記^もと^と今^知る^神や^月の^露下^柴
う^ま事^に友^もな^るて^酒の^れ三^子
仲^し高^神の^なる^る也^善 浩^丹歎
雨^も雪^も成^拂つ^るる^るみ^きり^りの^秋 答^英

